

## 第11回 ボランティア養成講座

# 「ふれジョブ」って何？

## しごとと体験から生まれる子どもの自信と地域の輪

「ふれジョブ」とは、障がいのある子ども達が地域の中で「笑顔」で「元気」に暮らし続けることができるよう、しごとと体験をすることを通し、子ども達が自信をつけ、地域の方々と共に育っていく活動です。

この度、本学と教育連携協定を締結している調布特別支援学校を中心に「調布ふれジョブの会」が発足しました。この取り組みを多くの方々に知っていただき、新しく始まる調布の「ふれジョブ」が企業やジョブサポーターの力を得て、地域の風景となることを期待しています。

本講座では、杉並ふれジョブの会の活動を杉並区立済美養護学校の松浦校長先生より伺います。また、実践例について、杉並ふれジョブの会の生徒、保護者、ジョブサポーターから伺い、調布の街での実践について参加者で考えます。

【日 時】 平成28年10月8日（土）10:00～11:30

【会 場】 電気通信大学 80周年記念会館3階

東京都調布市調布ヶ丘1-5-1（京王線調布駅北口より徒歩5分（甲州街道側））

【内 容】

### 講演会

松浦 隆太郎 氏（杉並区立済美養護学校 校長）

- ・ ふれジョブについて
- ・ 『杉並ふれジョブの会』の活動紹介

### パネルディスカッション

コーディネーター： 松浦 隆太郎 氏

パネリスト： 杉並ふれジョブの会の皆様

（チャレンジド（生徒）、保護者、ジョブサポーター）

### 「調布ふれジョブの会」の紹介

- ・ 『調布ふれジョブの会』活動計画
- ・ 受入企業について

（司会）電気通信大学 准教授 水戸和幸

【対象者】 学生および一般（高校生以上）

【定 員】 50名（定員になり次第、締め切らせていただきます）

【受講料】 無料

【お申込・問合せ先】 電気通信大学 研究推進課

（メール、電話、Web のいずれかでお申込み下さい）

E-mail : [kenkyo-k@office.uec.ac.jp](mailto:kenkyo-k@office.uec.ac.jp)

（氏名、住所、年齢、電話番号を明記下さい）

電話： 042-443-5880（土・日・祝日を除く）

Web: <http://www.ccr.uec.ac.jp/activity/kouza/>

【主催】 国立大学法人 電気通信大学社会連携センター

【共催】 東京都立調布特別支援学校、調布特別支援学校リソース・ネット



# What's ふれジョブ?

「ふれジョブ」は、障がいのある子が、地域の企業や商店でしごとの体験をする活動です。

でも、それは単なる「就労体験」ではありません。

障がいのある子供、受け入れてくださる地域の企業や商店のみなさま、  
そしてお仕事を見守るジョブサポーター（ボランティア）が、  
週1回1時間の「おしごと」をともに体験し、共有し、理解を深めていく活動です。

子供たちは「しごと」を通じて「このまち」の一員として  
ふるまうことを学び、自信をつけていきます

受け入れる人たちは、「子供」のありのままと直接触れ合うことを通して、  
誰もが豊かに生きる「このまち」の未来を考えていくことができます

2003年、岡山県倉敷市でスタートしたこの活動は、全国に  
広がっています。東京都内でも、すでに杉並区で活動がスタートしました。

そして私たちが暮らすここ調布でも、子供たちの豊かな育ち  
のために、まちの未来のために、この活動をはじめたいと思  
っています。

ふれジョブは、障がいのある子もそうでない子も一緒に生きてい  
くことができる地域社会を共に創るという目的の活動です。

障がいのある子が学校と自宅を往復するだけではなく、学齢期  
から地域社会において、今ある力を発揮し、地域社会の一員とし  
て居場所を持てるようにすることが必要ではないかと考えまし  
た。地域社会に暮らす人々に対しても、障がいのある子どもたち  
との直接的な接触経験を増やして理解する機会を作れば、「障が  
いのある子」として見る視点から「未来の地域を作るなかま」の視  
点に質的に変化すると考えました。

そうした考えのもと、地域の方がボランティアで、ジョブサポ  
ーターとなり、学校から地域の企業に毎週1回、障がいのある子  
を連れて行き、1時間程度、就労体験をする、それを半年間続け、  
また、別の企業に行き、別の仕事を体験する、そして月1回定例  
会を開き、その様子を報告するという活動を始めました。これが  
「ふれジョブ」です。

(全国ふれジョブ連絡協議会ホームページより)

## ふれジョブの流れ

週1回、ジョブサポ  
ーターさんと一緒に  
企業を訪問します

その日の「おしごと」を  
ジョブサポーターの見守  
りのもとで行います

月1回程度定例会を開い  
て、関係者で情報共有し  
ます

半年間、この流れ  
を続けます

